

電子材料，無機材料などの構造物性の評価には光と分子との散乱現象を分析するレーザーラマン分光装置（RAMAN）が用いられています。特に分子の結合状態や配向状態，および応力評価などに利用されています。

ここでは成膜条件の異なるDLC膜をRAMAN（ジョバイボン：Ramanor U-1000）によって分析した例を紹介します。成膜条件によってラマンスペクトル形状が異なりますが，このスペクトルを波形分離することによってsp²とsp³の混合状態を推定することができます。波形分離の例は弊社テクニカルシートのRAMAN-01をご覧ください。

